

「筑波大学出版会 10 周年記念シンポジウム開催」

筑波大学出版会では、9月29日（金）大学会館国際会議室において「筑波大学 10 周年記念シンポジウム」を開催し、学内関係者及び学生の 75 人が参加しました。

筑波大学出版会は、平成 19 年 7 月に設立され、今年度で 10 年という節目を迎えました。これを機に、設立時からこれまでの状況を振り返り、今後も筑波大学の研究成果の発信を継続できる出版会であり続けるため、10 周年記念行事の一つとしてこのシンポジウムを開催しました。

配布された資料の「10 周年記念誌」には、「あゆみ」として、設立時から今日までを刊行書籍とともに振り返り、昨今の出版形態の変化への対応が紹介されるとともに、設立にかかわられた先生方や執筆された先生方から寄せられたメッセージからは、それぞれの先生方の出版会への想いがうかがえます。

シンポジウムでは、本学社会学類卒業生で作家、翻訳家／日本ペンクラブ常務理事として活躍する松本侑子氏により「小説家・翻訳家として 30 年」を演題とする講演会、そして、松本氏、永田学長、西川出版会運営委員会委員長による鼎談が行われました。

松本氏の「通説を疑い、徹底的に調査し、小説を書き上げる」という仕事に対する情熱やアプローチの仕方が本学の学生時代に培われたもののお話は、参加者すべてに多くの示唆を与えるものでした。

【写真】



(出版会代表あいさつ)



(鼎談 壇上右から、松本氏、永田学長、西川委員長)